

けがをしたときは

さいがいがおきたときは、^み身をまもることが大切ですが、^{たいせつ}けがをしてしまうことがあります。自分でできる^て手当ての方法をおぼえましょう。

1 ^{て あ} ^{ほう ほう} 手当ての方法をおぼえましょう

● ^{しゅっけつ}きずなどによる出血

まずは、きれいな水^{みず}であらい、^{しゅっけつ}出血しているところをきれいなガーゼや布^{ぬの}で強くおさえ、^ち血にちよくせつさわらないようにします。

きれいなガーゼがないときは、ハンカチなど^{み ちか}身近にある布^{ぬの}をつかきましょう。



● ^{だぼく}だぼく

ひなんするとき、つまずいたり、ころんだりして、^{からだ}体をぶつけることがあります。

いたいところをよく^み見て、はれやいたみが強いときや、^{かたち}形がかわっているときは、^{うご}動かないようにし、すぐに^{おと な}大人に知らせましょう。

^{て あ} ^{やく だ} ^{み ぎか} けがの手当てに役立つ身近なもの

ハンカチ：ガーゼのかわりになる。

ラップ：^ち血を止めるとき、^{ほう たい}ほうたいのかわりになる。

ビニールぶくろ：^ち血を止めるときに^て手ぶくろのかわりになる。



^{なか}ぼうさいリュックの中に、^{きゅう}きゅう用品^{よう ひん}を入れておくと^{あん しん}安心です。ぼうさいくんれんなどで、^{て あ}手当ての方法^{ほう ほう}を^{まな}学びましょう。



2 ^{おと な} 大人につたえよう

けがをしたり、たおれている人^{ひと}を見つたりしたときは、^{ちか}近くにいる大人^{おと な}につたえましょう。

「どんなふう^{はな}に、話せばいいのかな？」

